

令和7年度 学力向上指導改善プラン

学校教育目標 心豊かにたくましく進んで学び 共に生きる児童の育成
～大好き自分 大好き友だち 大好き藍～

目指す子どもの姿 元気な挨拶を行い、憧れや敬意、思いやりの気持ちを感じ合いながら生活する子どもの姿
変容を目指す資質・能力 a 知識及び技能 b 思考力、判断力、表現力等 c 学びにむかう力、人間性等 d 情報活用能力 e 課題解決能力 f 学び続ける姿勢 g コミュニケーション能力

三田市長 立藍小学校 赤木智子
研究主体【校内研究推進委員会】

前年度		継続性	4月 ※全国学力・学習状況調査の結果などを受けて年度途中で変更する場合は削除、追記部分を赤字で修正		2～3月 年度末評価		
学力向上に向けた重点的な目標	年度末評価 (前年度の成果と次年度に向けた課題等)		学力的向上に向けた重点的な目標 (変容を目指す資質・能力)	成果となる目標 (指標となる数値等)	具体的な行動目標 (成果目標達成のための具体的な手立て等)	(今年度の成果と来年度に向けた課題等)	評価
・課題解決に必要な情報を関連付ける力の育成	○資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫することができるかどうかをみる問題の正答率は全国平均を上回っている。 ○タブレット端末を活用し情報や資料を集め、必要かつ適切な情報を選択する授業の充実を図り、ミライシードを活用した協働的な学習をさらに進めていくことができた学年が増加した。	B →	・課題解決に必要な、「複数」の情報を「関連付ける」力の育成 (b・d・e)	①国語、算数の「思考・判断・表現」に関する項目の平均正答率が全国平均を+3ポイント以上 ②質問調査で「授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」の肯定評価が全国平均を+3ポイント以上 ③質問調査で「各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていましたか」の肯定評価が全国平均を+3ポイント以上	・算数では、「言葉、図、式」を関連付けて説明する活動を授業に位置付ける ・算数では授業の「めあて」「ふりかえり」に技能面と思考面両方の記述を位置付ける ・各教科等で、「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組む」場面を設定する ・各教科で、情報を収集・分類・整理し、目的に応じて情報を効果的に活用し、自己の考えを論理的に述べる発表などの学習の場を設定する	・算数科において「言葉、図、式」を「算数科における言語」として思考過程を表現する際に子どもたちに意識して使用するよう指導を行った。そのことで算数科における言語をもとに、設問内の情報を関連付けながら理由や根拠を説明しようとする児童が増えた(ノートより)。今後「比較」「類推」「理由」などの思考について校内研究推進委員会で整理することで「授業内容の深化」「質の高い、深い学び」の実現を図りたい。	b
・読書活動の充実	○本の貸出は昨年度を上回ることができた。 ○毎月更新される学校司書選書による「ミニ図書館」を各学年に設置することで、朝読書の充実が図られた ○学習と関連付けた読書活動を学校司書と連携を図り全学年で実施できた ◆家族読書の推進を家庭と連携して進めたい	A ↗	・問題解決型の授業構成を中心とした探求の過程を大切に授業改善 (b・g)	①質問調査で「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか」の肯定評価が全国平均を+3ポイント以上 ②質問調査で「話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか」の肯定評価が全国平均を+3ポイント以上	・学習者自身が「なぜ？」と考えられるような問いを学習課題に設定する ・学習の成果をプレゼンテーションやレポートにまとめたり、グループで発表したりする活動と取り入れる ・ICT、ノートなどを活用し思考過程が残るよう単元全体をコーディネートする	・次期学習指導要領改訂に向けた論点整理では、「タテ・ヨコの関係」の可視化による「深い学び」の具現化について記された。「知識の理解も、それが生きて働くように深く学ぶことが重要」(タテ①)「思考力・判断力・表現力等も、社会や生活で直面する未知の状況でも課題解決に繋げていけるよう『質』を高めることが重要」(タテ②)「知識・技能なしに思考・判断・表現することは難しいし、思考・判断・表現を伴う学習活動なしに、知識の深い理解と技能の確かな定着は難しい」(ヨコ)これらを含む方策の一つとして問題解決型の授業構成や探求の過程を大切に授業改善は欠かせない。今年度の学習課題の設定、「めあてとふりかえり」を継続することで本重点目標の深化を図りたい。	b
・問題解決型の授業構成を中心とした探求の過程を大切に授業改善	○資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫することができるかどうかをみる問題の正答率は全国平均を上回っている。 ○質問調査において「国語の授業で、目的に応じて、簡単に書いたり詳しく書いたりするなど、自分の考えが伝わるように工夫して文章を書いていますか」の項目では、100%の回答を得た	B ↘	・ICTを最大限活用し、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善 (c・d・e・f)	・学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を活用することについての質問調査で①～⑦のうち、4項目で肯定評価が70%を上回る ①自分のペースで理解しながら学習を進めることができる ②分からないことがあった時に、すぐ調べることができる ③楽しみながら学習を進めることができる ④画像や動画、音声等を活用することで、学習内容がよく分かる ⑤自分の考えや意見を分かりやすく伝えることができる ⑥友達と考えを共有したり比べたりしやすくなる ⑦友達と協力しながら学習を進めることができる ・ICT機器を1日に複数回活用する	・授業・単元の言語活動をディスカッションだけでなく、グループワークやフィールドワーク、実験やプレゼンテーションなど、様々な取り入れることで、主体的・対話的で深い学びを促す ・ICTを活用して、児童同士の意見交換や共同作業(共同編集)を行うことで、他者の意見や視点を尊重しながら考えを深める ・全国学力学習状況調査質問紙調査内における項目の肯定的評価9割を目指す。	・本項目の目標「ICTを最大限活用し、『主体的・対話的で深い学び』の実現に向けた授業改善」に関して、実践事例の蓄積が急務である。ICTを使うことが目的化しがちな点に留意し、次年度早期に実践例交流を行う。年間通じたICT活用、ICTを手段としたつきたい力の着実な育成を図りたい。今年度の実践を取りまとめ、次年度早期にICTの具体的な活用事例についての研修を行い、日常的にICTを活用し授業が深化するよう取り組みを進めたい。	b
・「学びに向かう力」を高める授業をめざして～学びの原動力となる「?!」を大切にしながら～というテーマに沿って、活用を位置付けた研究の推進	○特別支援教育の視点を取り入れた授業設計を行うことで、個別最適な学び(指導の個別化、学習の個性化)を図ることが出来た。	B ↗	・家庭における学習習慣の確立 (c・f)	①学校評価における、保護者アンケートで、「子どもは家庭で計画的に学習を進めている」の項目で80%以上が肯定評価となるようにする ②質問調査で「学校の授業時間以外の学習時間」が1日当たり2時間以上という回答が全国平均以上 ③児童に「家庭学習の手引き」の意識をつくる	・市発行の「ひとり学びへの手引き」をもとに、「家庭学習の手引き」を低・中・高学年向けに作成している。「家庭学習の手引き」の活用と活用実態をさぐり、効果的な運用を目指す ・ミライシードを活用した家庭学習に取り組み、日々の学習の振り返りを児童、保護者、担任間で共有しながら進める	①今年度学校評価における保護者アンケート「子どもは宿題は毎日やっている」の肯定的評価は、87%であった。 ②質問調査で「学校の授業時間以外の学習時間」が1日当たり2時間以上という回答、本校27.3%(全国 24.9%)でありプラス2.4%であった。 ③藍中学校区で作成している「家庭学習の手引き」に関して、今後も意識の徹底と保護者への啓発を行う。運用について、授業内容を事前に宿題として考えて来た後、授業で内容を深める学習やICTの「みんなボード」を活用した共同学習製作物の進展に取り組みたい。	b
・学力向上に向けた小・中連携の推進	○三校研の4つの分科会(特活・生活指導、人権、特支、学習)を充実させ、「9年間の連続した学び」を意識した共通の取組を具体的に話し合うことができた。	A →	・基礎学力や目まぐるしく変化する予測困難な時代を生きていくために必要な学力向上に向けた小・中連携の推進 (a・b・d)	・「適切な情報収集活用力」「迅速な意思決定力」「臨機応変な課題対応力」などを身につける授業を実践・成果物・子どもの姿で情報共有する ①年1回の教科合同研修会の開催と、教務等による学力向上に向けた小中連絡会を学期に1回以上(年3回以上)開催する ②全国学力・学習状況調査の各教科における平均正答率を前年度以上にする	・学力向上に向けて、児童生徒に身につけさせたい資質について、中学校区での共有を図る ・小・中共に、「複数の情報を関連付ける学習の充実」と「自己の考えを論理的に表現する学習」について、授業改善を進めていく ・全国学力・学習状況調査の合同分析を教務担当で行い、その後合同の研修会を開催する	・中学校区学力向上部会において「語彙力の向上」「基礎学力の定着」等を目的に図書館教育の実践例が交流された。次年度も引き続き、実践例を交流することや取り組みを進めることが確認された。 ・「書くこと」を重視した日常の取り組み(ノート指導・ICT活用を含む)をすすめる。子どもたちが「書きあわしたの」にどのような思考が見て取れるのか、分析を重ねたい。	b
・家庭における学習習慣の確立	○三校研の取り組みの中で「家庭における学習習慣の確立」について議論がなされた。「家庭学習の手引き」を作成し、中学校区内9年間の連続した学びを意識するとともに、共通の取組を具体的に進めるできた。 ●次年度、内容を充実させるとともに家庭での学習習慣の定着を図りたい。	B ↘	・読書活動の充実(a・d・f)	・子どもにとって「情報を『集める』『整理する』『活用する』」力を養う。 ・読書を通じて豊かな情操や言語感覚、想像力を育成する。 ・図書館資料やICT機器を組み合わせ、批判的に情報を扱うリテラシーを育てる ・学校司書と連携し児童の調べ学習や読書活動を支援する	・学力学習状況調査質問紙項目において、肯定的評価を8割に高める ・藍中学校区内で実践資料を交流する	・学校図書館を活用した実践(ビブリオバトル・貸出し冊数0の本を教え・推し本活動・本のコレクションなど)を中学校区に配布し実践交流を行った。 ・学校図書館利用の推進を目的に委員会活動を推進した。 ・中学校区学力向上部会において、基礎学力を支える重要な取り組みとして図書館教育を捉えること、図書館教育の実践事例のさらなる積み重ねを行う。令和8年度も中学校区において実践事例交流を行うことで確認が出来ている。引き続き学校司書と連携し、取り組みを進めたい。	b

○「教員評価」は教員対象に実施した自己点検調査結果(0～4の5段階評価)の平均値
○「評価」は年間の取組みについて、4段階で評価
A・・・十分に達成 B・・・おおよそ達成
C・・・達成が不十分 D・・・ほとんど達成できず